

令和6年度第1回安曇野市文書館運営審議会 会議概要

1	会議名	令和6年度第1回安曇野市文書館運営審議会
2	日 時	令和6年6月10日 月曜日 午後2時から午後3時30分
3	会 場	安曇野市役所本庁舎4階 会議室 401
4	出席者	細川委員、唐木委員、小宮山委員（リモート）、瀬畑委員（リモート）、村石委員
5	市側出席者	橋渡教育長、三澤課長、逸見係長、平沢文書館長、松澤主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和6年6月28日
会 議 事 項 等		
○会議の概要		
1	開会	
2	教育長あいさつ	
3	協議	
(1)	令和5年度事業報告について	
	事務局	・資料1について説明
	委員	・資料の受入点数について、過年度に受け入れた資料の整理点数と、令和5年度に受け入れた資料の整理点数が明確にわかるようにした方がよい。 ・地域資料が例年に比べて多く入ってきたと思うが、それはなぜか。
	事務局	・受入資料の点数については、今後明確にわかるように表記する。 ・地域資料について、整理点数が約14,000点という数字になっているのは、堀金地域の山口家の資料整理が3年目となり、ほぼ終了してきたためである。また、受入点数が増えたのは、文書館の認知度が高まってきたためと思われる。
	委員	・「子ども向けのパンフレット」は、広く公開されているものなのか、中学校の出前講座のみに使われているものなのか教えていただきたい。 ・市誌編さんについて、子ども版の進捗状況について教えていただきたい。
	事務局	・「子ども向けのパンフレット」は、市内の図書館にも配布している。また、出前講座ではそのクラスの生徒全員に配布し、文書館の紹介資料として利用している。 ・市誌の子ども版については、構想はあるが、作成の検討まで至っていないというのが現状。
	委員	・地域資料について、多種多様なものが増えてきているが、郷土博物館と文書館で資料のすみ分けは意識しているか。
	事務局	・郷土博物館で収蔵していたものを、文書館へ所管替えしているものもある。 ・郷土博物館へ古文書等の相談が来た場合は、郷土博物館から文書館に連絡して、文書館が対応するという事案は昨年度も何回かあった。基本的には、郷土博物館は民俗資料を主に扱うところに軸足が置かれるので、紙物の資料は文書館でというような形になると思う。
	委員	・同じ教育委員会内で融通を利かせながらやっていただければいいが、どっちに何があるかよくわからない状況になるのはよくない。ある程度ルールがあった方がよい。
	委員	・空き家対策・空き家所有者への啓発チラシ等は、ホームページに掲載した方がよい。
	事務局	・関係部署とも調整しながら検討する。
	委員	・近現代の資料の収集を意識していった方がいい。というのは、初代の安曇野市長、前任者の宮沢市長のところに、個人的な資料が残っているかもしれない。特に、安曇野市の合併はかなり大きい事業だと思うので、新しい市長だけでなく、そのとき最後に町村長だった人も含めて、何か資料を持っていないか探してみてもいいのではないか。
(2)	令和6年度事業計画について	
	事務局	・資料2について説明
	委員	・公文書の電子化について、システム開発のところから関与していく方がいい。文書を作る段階から、最終的に廃棄や移管をしていくところまで、いろんな意見交換をしながら、共通認識を持てるようになると、文章を作るところも含めてよりシステムとしてはいいものができるのではないと思う。

- 委員 ・市誌編さんの子ども版について、これから手をつける段階ということだが、ぜひ着実に進めてもらいたい。すごく立派な冊子でなくともよい。例えば、子どもたちに順次資料を提供していくということはどうか。どうしてかと言うと、学校には教師がおり、教師が必要に応じてそれを子どもたちに合う形で教材化してくれると思う。先般、先生方と話をする機会があり、どんな方針で教育課程を組んでいくのか、教育目標を作っていくのかという話を伺ったが、やはり安曇野の環境や資源を生かす、地域を生かしていく、地域の共同学習を進めていく、ということが多くの先生方から出ている。それに合わせた資料を提供するというようなことを考えていただきたい。
- 事務局 ・いただいたご意見については検討していきたい。
- 委員 ・市誌編さんにおいて、映像や音声資料の収集についてはどのように考えているのか。
- 事務局 ・映像資料あるいは音声について、調査員による聞き取り調査が大部分を占めている。その中で何を映像資料として残すか、例えばお祭りの映像なのかとか、拾うべきところを取捨選択していければいいのかなと考えている。また、郷土博物館で撮影したものもある。
- 委員 ・子どもたちが若いうちに学生のうちに1回は文書館というところがあるんだということを学んでもらいたい。その1回の学習をぜひ広く広めていただきたいので、学校の先生との連携を進めていただけたら。
- 委員 ・土地改良区あるいは財産区、それから地域の会社で作成した社史や記念誌も収集してもらいたい。
- 事務局 ・積極的に進めたい。

4 閉会

以上